

岡山県井原市における 3 歳児健康診査について

藤井 千晶

井原市立井原市民病院 | 視能訓練士

井原市の紹介

まず岡山県井原市をご紹介させていただきます。場所は、岡山県の西端南部に位置し、広島県に接しています。現在の井原市は、2005 年に井原市と後月郡芳井町および小田郡美星町が合併して誕生しました。市街地を除くほとんどを丘陵地帯に広がる里山林が占めていることから、四季折々の風景を楽しむことができ、また、夜空に満天の星が広がる美星町は日本三選星名所に選ばれています。その一方で、人口は 2023 年 3 月末時点で 37,835 人と年々減少し、高齢化率は 37.7% と全国平均を大きく上回っています。加えて、2021 年の出生数は 188 人とどまり、少子高齢化が急速に進んでいます。

3 歳児健診への視能訓練士参加の経緯

視能訓練士の 3 歳児健康診査 (3 歳児健診) への参加については、2000 年代初頭から何度か市議会で検討されてきましたが、従事できる人員を確保できなかったことから、永らく実現しませんでした。そのうち、2013 年度に川崎医療福祉大学 医療技術学部 感覚矯正学科 視能矯正専攻 (現 リハビリテーション学部 視能療法学科) の教職の先生方のご理解とご協力を賜り、井原市へ 1 名派遣していただいたことによって、初めて視能訓練士が 3 歳児健診に参加しました。そして、2014 年度には当院からの派遣も可能になったため、現在では奇数月を川崎医療福祉大学、偶数月を私が担当し、各月 1 名の視能訓練士が従事しています。

3 歳児健診の概要

井原市では、3 歳 6 ヶ月の児を対象として 1 回/月 (年 12 回) 実施しており、児の人数は約 20 名/回です。その内容は、視覚検査のほかに、“体格測定・内科診察・歯科診察・歯科相談・幼児食相談・育児相談・発達相談・親子遊び・絵本の読み聞かせ”となっています。

健診の当日は、二次検査会場で視覚検査マニュアルに倣ったアンケート¹⁾を回収しますが、2021 年度までは、その回答にかかわらず看護師が全員の視力を測定していました。そこで異常が疑われた、または測定できなかった児は別室に移動し、視能訓練士が再び視力検査等をおこない、屈折検査は検影法を実施していました。

2022 年度からは、井原市役所の健康医療課と当院の間でスポットビジョンスクリーナー (SVS) の貸借契約を交わして当院から貸し出すことで、全員を対象に SVS での検査を実施できるようになりました。また、これに伴って 3 歳児健診の流れが図 1 のように一新されました。この方式に変更されてから健診会場に滞在する時間が短縮され、COVID-19 や他の感染症の感染対策の一助にもなっています。

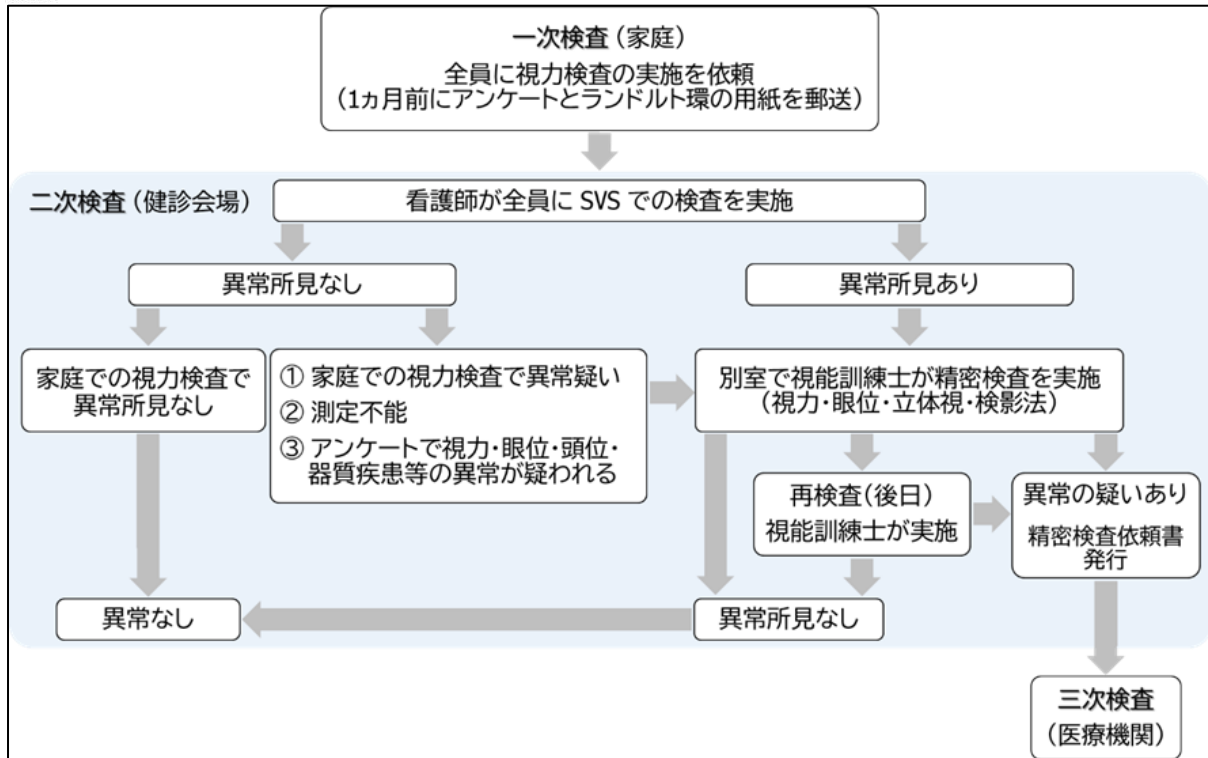


図 1 2022 年度からの 3 歳児健診の流れ

健診結果

図 2 に 2019 年度から 2022 年度までの二次検査と三次検査の結果の内訳を提示します。2021 年度までは、二次検査の対象児のうち概ね 30～40%に視能訓練士が精密検査を実施し、そのうち異常の疑いがあると判断された約 20%の児に精密検査依頼書を発行して三次検査の医療機関へと引き継ぎました。その際、視能訓練士は健診の状況がわかるように健診記録に詳細を記し、医療機関への情報提供に役立っています。井原市では、健康医療課の連絡・支援体制が整っており、精密検査依頼書を発行した児は全員（100%）が、三次検査を受けています。これは、井原市が小規模の自治体であることが幸いしています。

全員に SVS での検査を実施した 2022 年度は、視能訓練士が精密検査を実施した児は 27.4%と、過去 3 年間で比べてわずかに減少しました。これまでは、家庭での視力検査は上手にできていたものの、健診会場では環境の違いなどで測定不能となった児に対しても

精密検査を実施していたため、視能訓練士の検査実施数が増えていましたが、そのような児も SVS では容易に検査ができ、異常なしと判断できたことが要因と思われます。一方で、精密検査依頼書を発行した児は 38.9%と比率は倍増していますが、発行数は 21 と微増でした。この比率の増加は、視能訓練士の検査実施数が減少したことによると思われます。それに加えて、視能訓練士が SVS の結果を考慮しながら検査を実施できるため、健診内容が充実し、精度が向上していることも寄与していると考えています。

2022 年度の結果には、三次検査を受診予定で、まだ受診できていない児（6 人）が含まれるため、2023 年 5 月末までの途中経過ではありますが、2019 年から 2022 年で、三次検査を受診した児のうち約 90%が、医療機関での治療、再検査および経過観察が必要という結果を得ており、3 歳児健診の有効性が示されました。

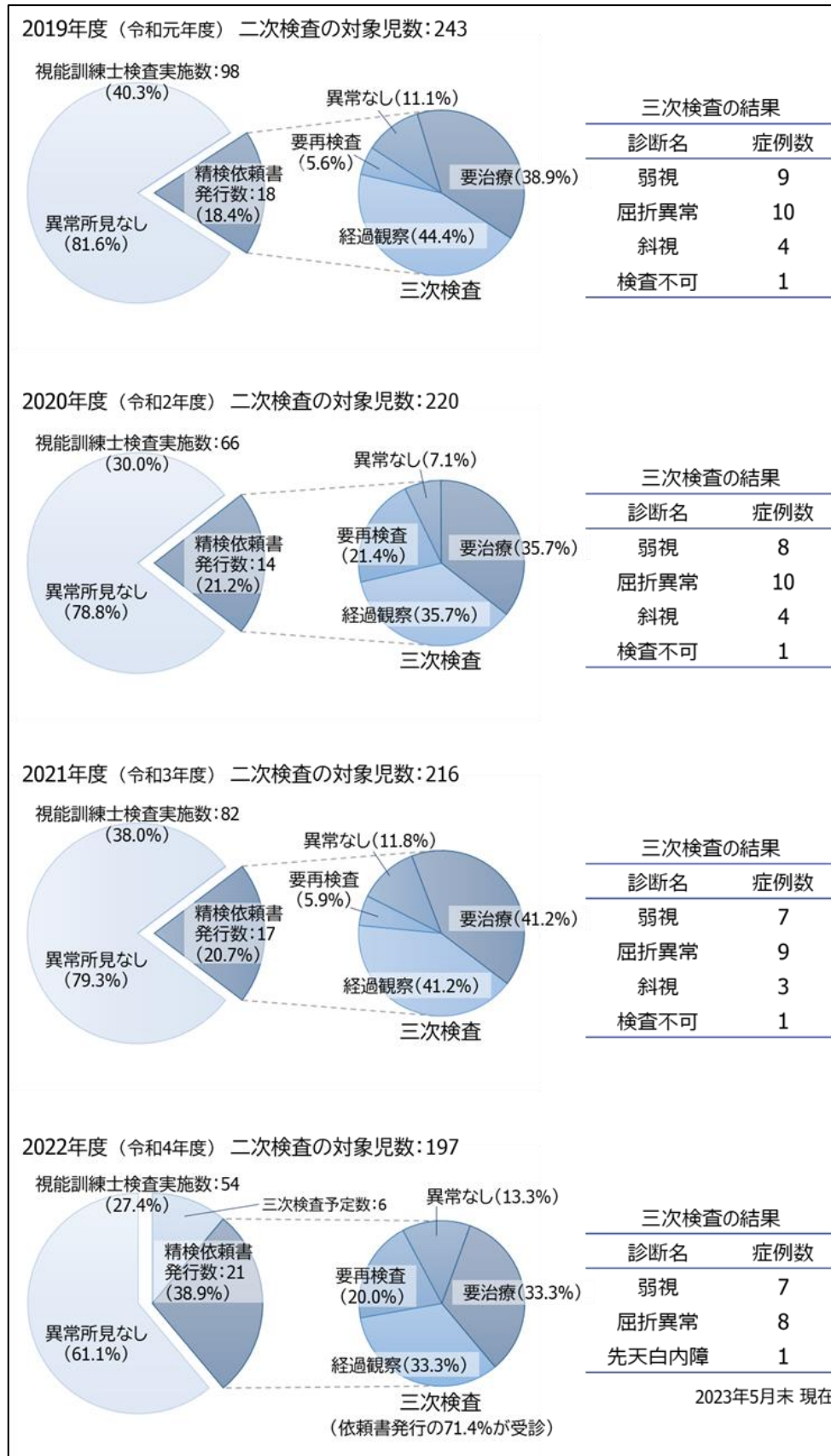


図2 二次検査および三次検査の結果の内訳

今後について

井原市の少子高齢化は、今後も加速していくことが推察されます。しかしながら、小さな自治体であるからこそ、子育て支援には力を注いでいます。3 歳児健診においても“市・医療機関・看護師・保健師・視能訓練士”が密に連携することができ、児への包括的な支援が可能になっています。これからも、小さな自治体ならではの利点を活かして 3 歳児健診に携わっていきたいと思います。

参考資料

1) 公益社団法人 日本眼科医会: 3 歳児健診における視覚検査マニュアル～屈折検査の導入に向けて～. 16-18, 2021.

https://www.gankaikai.or.jp/school-health/2021_sansaijimanual.pdf